

『混迷の時代のなかで～「変わらないもの」と「変わるべきもの」』

西南学院大学 神学部長 才藤千津子（平尾教会）

イザヤ書 9:1 「闇の中を歩んでいた民は大いなる光を見た。
死の陰の地に住んでいた者たちの上に光が輝いた。」



主イエス・キリストのご降誕を、皆さまと共に喜び申し上げます。
皆さまには、神学部へのご支援とお祈り、また神学校献金へのご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

紛争や戦争が絶えなかった 2024 年が終わろうとしています。日本社会も大きな「転換」を迫られています。教会、そして神学部もその例外ではありません。神学部では現在、時代の変化の中で、「変わらないもの」と「変わるべきもの」を識別しながら、新しい時代の神学教育や伝道者養成のあり方を模索しています。

例えば、西南学院では、様々な論議を経ながらも「日曜日を安息日として守る」という精神が創立以来今日まで大切にされて来ました。今年も、大学から神学部に対して「一般入試の日曜日実施」を実施したいとの問い合わせがありましたが、神学部教授会では、建学の精神の礎としている聖書の使信を示しながら、日曜日実施には賛成できないと回答しました。これは、月日を経ても変わらないことからです。

一方で、変わって行かなければならないこともあります。例えば、神学生の数が減り学生の気質も大きく変化してゆく中で、今後神学寮をどう維持してゆくかという問題です。神学生が安心して滞在できる部屋を確保することは必須ですが、それ以外の空室をどうするか、今後大規模修繕の必要にどう対応するかなどの課題があります。設立時に献金をいただいた趣旨を大切にしながら、どうすればよい全人的キリスト教教育の場を提供できるか、神学部では、今後連盟、学院、神学部で話し合っけてゆくことを希望しています。

私は来年 3 月で学部長職を終えますが、この 2 年間絶えず痛感してきたのは、伝道者教育においては教会との連携がどれほど重要かということです。伝道者教育は神学部だけでは行えません。教会は人を育ててゆく豊かさを持っています。教会との緊張感のある対話と協力関係があってこそ、神学教育が生きた力になるのではないのでしょうか。闇の夜のような現代世界ですが、その中でも真実の光を見失わないでいたいものです。そのための壮年会連合の貴重なお働きに感謝し、また期待しております。

2024年11月現在の神学生奨学金献金・会費実績および対前年度比較

地方連合名	神学生奨学金献金						連合会費					
	2024/11実績		前年同月		対前年額	2024/11実績		前年同月		対前年額		
	金額	教会	金額	教会		金額	教会	金額	教会			
北海道	204,021	8	202,022	8	1,999	32,000	3	32,000	3	0		
東北	240,848	9	297,461	10	-56,613	64,000	5	102,000	8	-38,000		
北関東	594,261	7	484,485	8	109,776	38,000	2	68,000	5	-30,000		
東京	1,521,902	19	1,861,867	22	-339,965	254,000	11	298,000	11	-44,000		
神奈川	511,345	11	783,630	11	-272,285	163,000	9	142,000	6	21,000		
西関東	265,360	6	311,532	6	-46,172	51,000	4	30,000	3	21,000		
中部	345,010	7	314,985	7	30,025	101,000	8	0	0	101,000		
関西	466,250	14	468,425	14	-2,175	60,000	5	58,000	5	2,000		
中四国	707,900	16	734,600	18	-26,700	78,000	7	90,000	10	-12,000		
北九州	313,910	9	244,000	8	69,910	12,000	2	36,000	3	-24,000		
福岡	926,046	17	843,044	19	83,002	132,000	8	134,000	10	-2,000		
西九州	471,604	8	328,270	8	143,334	24,000	2	38,000	3	-14,000		
南九州	255,000	11	245,400	11	9,600	70,000	10	54,000	8	16,000		
個人団体等	300,235	0	265,000	0	35,235	-	-	-	-	-		
総計	7,123,692	142	7,384,721	150	-261,029	1,079,000	76	1,082,000	75	-3,000		
対前年比	98.5%	94.7%				99.7%	101.3%					

個人団体除く合計	6,823,457	142	7,119,721	150	-296,264
対前年比	95.8%	94.7%	(参考:個人団体等を除く献金額です。)		

◎ 11月末現在、個人団体等を除く金額です。献金対前年同期比で献金が95.8%（約26.1万）です。教会数は94.7%（-8教会）です。会費は99.7%（約0.3万）です。ぜひお祈りに加えていただき献金増加と共に、充実した連合活動のために連合会費へのご協力をお願いします。

「献身の証し」

間村史子（宇美教会 牧師）

哀歌 3章 22～23a 節

主の慈しみは決して絶えない。
主の憐れみは決して尽きない。
それは朝ごとに新たになる。

主イエス・キリストの御名がほめたたえられますように。

2017年4月に、九州バプテスト神学校に入学してから、早いもので、7年と8ヶ月が過ぎました。在学中に、城前校長先生が、「牧師になんてなるもんじゃないよ。でも、なったら楽しくて辞められないよ。」と言われていたことが、ずっと心に残っていますが、牧師として働き始めて2年と8ヶ月、まだまだ浅い経験の中で、後半部分（楽しくて辞められない）は本当にその通りだと思いながら牧師の仕事に励んでおります。これから先、経験を重ねて前半部分（なるもんじゃない）も、しみじみその通りだと感じ、後半部分を「そんなわけない〜」と嘆く時が来るかもしれません。先のことは分かりませんが、今を大切に、1日1日、感謝して、丁寧に働いていきたいと願っています。



九州バプテスト神学校では、神学だけではなく、バプテストの歴史や教会形成についての学びもしっかりとさせて頂きました。また、とても大切な「神に仕え、人に仕える」という牧会の基本が心に叩き込まれたことをありがたく思っています。御言葉に生かされること、賛美する喜び、神学校時代に祈りの力の素晴らしさを何度も経験しました。特に、札幌教会での研修は皆さまの尊い祈りなくしては、とても経験できなかったことを思い、感謝するばかりです。神学校で学んでいる時から薄々察知してはいましたが、実際に牧師として働き始めてから、毎日、毎日、繰り返し、繰り返し、聖書の御言葉を頂き、賛美し、祈ることなくしては、どうにもこうにもならないことを実感しています。2023年の8月15日から、月曜日から土曜日の朝、7時～7時半に礼拝堂で、朝の礼拝を始めました。会堂に来られるには難しい時間帯ですが、教会に宿泊された方がご一緒してくださったり、SNSで朝の礼拝を覚えてコメントをくださる方がたもおられ、礼拝から1日を始めることができる恵みに感謝しています。

牧師2年目の2023年5月から新型コロナウイルス感染症の位置づけが「5類感染症」となり、礼拝出席者も徐々に増え始めました。牧師1年目は、教会で祈祷会に参加できる方も少なく、大体いつも2名で、とにかく20人礼拝を目指して祈ろうと祈り続けました。私1人という時もありましたが、諦めずに祈り続け、今年度は出席者が20名以下となる礼拝が何度かしかないほど、祈りが聞かれました。祈祷会もレギュラーメンバーが4名に増え、私1人ということがなくなりました。1月には教会員の方に赤ちゃんが生まれ、喜びにあふれ、教会がとても元気になったように感じました。

悲しみが喜びに変わることがあれば、喜びが悲しみに変わることもあります。礼拝で可愛い声を聞かせてくれるようになった赤ちゃんも、そのご家族が、11月に遠方に転居されることが急に決まり、先月は涙、涙で過ごしました。宇美教会にできたばかりの聖歌隊に入ってくくださった求道者の方が、突然の病で入院するという出来事もありました。神さまの愛によって愛する人が増えると、喜びだけでなく悲しみも増えます。しかし、神さまの慈しみは決して絶えず、神さまの憐れみは決して尽きません。それは朝ごとに新たになります。1つの悲しみには1つの慰めが与えられました。遠方へ転居するご家族が宇美教会で捧げる礼拝の最終日に、新しく宇美教会員に加わることを希望されていた、ご夫婦の方の転入会が決まりました。先日、求道者の方が無事に退院され、早速、聖歌隊の練習に参加してくださいという嬉しい神さまからのクリスマスプレゼントも頂きました。礼拝に出席しないけれど教会のあれこれを手伝う父（通称ママさん）は、相変わらず、早朝の散歩や病院などで出会う人たちを教会に連れてきます。毎週金曜日に行っている「Coffee & Chat」という英会話のメンバーも1名増えそうです。

これからも、山あり谷ありで、笑いながら泣きながら、喜びも悲しみも分け合って、教会に集められたキリストの体たちと一緒に、この世の旅路を歩んでいくことかと思えます。日々の小さな出来事の中にある、神さまの愛と奇蹟にワクワクする宇美教会でありたいと願いながら、今回の献身の証しを書かせて頂きました。皆さまの今日が、神さまによって豊かに祝福されますように。祈りと感謝をこめて。

「私の賜物」

西南学院大学神学部 選科1年 大野 学

推薦教会：釧路キリスト教会

研修教会：長住バプテスト教会

主の御名を賛美いたします。神学生の証をする機会を与えて下さり心より感謝いたします。今回は「私が神から与えられた賜物は何か」ということについて書かせていただきたいと思います。私が神から与えられた賜物は3つです。健康であること、読書が好きであること、良い縁に恵まれていること。以下の文章で一つずつ説明させていただきます。

1つめの私の賜物は、健康であることです。地元北海道に住んでいた時は、24時間営業のスポーツジムで朝の4時からトレーニングに励んでおりました。そのおかげで、現在研修教会の長住教会までの往復20キロの距離を自転車で通っております。主日礼拝・祈祷会で週2回通っておりますので、ひと月で160キロになります、おかげで皆が体調を崩す中でも健康だけは守られ、精神的に落ち込むことがあっても厳しい神学部のカリキュラムを乗り切ることができたと考えています。

2つめの賜物は、読書が好きであるという事です。西南学院大学の素晴らしい図書館には何時間いても飽きることなくいられます。そして、先生方が授業で紹介して下さった本をすぐに借りるという習慣が身に付きました、実際はすべてを読み切ることなく返却することも少なくないのですが、たとえ読み切ることができなくても自分の体を動かして本を借り、または買ったという行動は肉体に記憶として残り、いつか私の血肉になって大きくその実が花開く日が来るのだという確信が私にはあります。

3つ目は良い縁に恵まれているという事でありませす。私を推薦して下さった牧師先生は、経験豊富な方でその50年の牧師生活で培った人脈を用いて多くのサポートを私に与えて下さいました。そして献身者が少ない中で、私には素晴らしい同級生2名が与えられました。ときにカチンとくることも言われますが、私のことを考えてアドバイスをくれていることを強く感じているので大変感謝しています。親子ほどの年齢の離れた学友は、初めて神学部チャペルでの説教奉仕した日の夜、ささやかなホットチョコレートのプレゼントしてくれたり、今後の為に貴重な資料を提供してくれました。

これらの賜物の後押しを受け、どんなアドバイスにも謙虚に耳を傾け、私は将来、無牧師で厳しい状況にある教会を何とか立て直したいと考えております。全国3万人の諸教会・伝道所の皆様今後とも祈りに覚えて頂ければ幸いです。



左から、須藤伊知郎神学部教授、小林羊一元神学部教授、大野学神学生

第59回 全国壮年大会 西九州大会 会計報告 正誤表

全国壮年大会 西九州大会・全国壮年会連合定期総会報告書(冊子)の50ページの会計報告の訂正です。

収 入

(単位：円)

科 目	決算額	備考
1 登録者神学校献金	誤：231,000 正：186,000	「日本バプテスト連盟全国壮年会連合全国壮年大会口座」に振込分
2 全国壮年会連合補助金	200,000	
3 西九州地方連合補助金	105,000	
4 西九州壮年会負担金	200,000	
合 計	誤：736,000 正：691,000	

※大会参加登録費は無料

◎ 支出は変更ありません。

第2回全国壮年会連合役員会報告

10月12日(土)午前10時半から午後3時30分まで第2回全国壮年会連合役員会が対面ならびにオンライン併用で開催されました。

8月に全国壮年会連合の文書総会と西九州連合による全国壮年大会が開催され無事終了しました。上半期が終わりこれから下半期というタイミングで、教会形成を担う壮年の働きを進め、私たち一人ひとりが元気になり、そして教会も元気になることを目指して行きたいとの会長挨拶がありました。

続けて、様々な項目について報告ならびに協議がされました。主な項目は、神学校献金・壮年会費の上半期実績とその評価、文書総会の結果について、中間監査の結果について、決算見込みを踏まえた今後の対応について、全国壮年会連合ホームページの改善について、ジェンダーの問題を踏まえた今後の壮年会連合の方向性について、などでした。その後、現状の課題、問題点など自由に討論する時間をもち、役員会を終了しました。

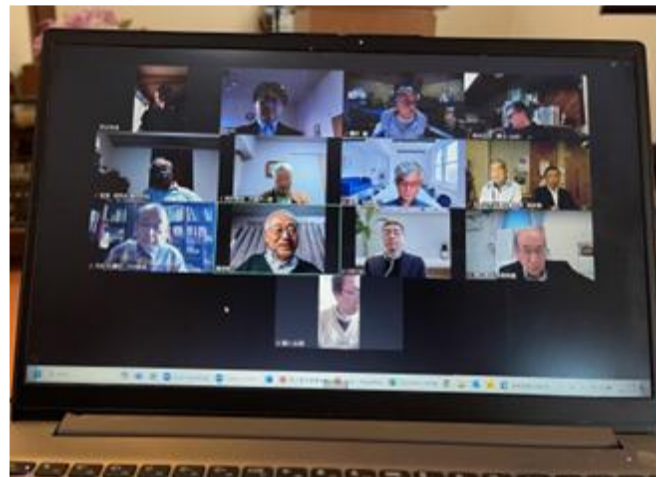
第2回地方連合壮年会等代表者会議(代表者会議)の報告

11月9日(土)午前10時から午後2時45分まで第2回代表者会議がオンラインのみで開催されました。初めに、全国壮年会連合副会長、事務局長を歴任し現在連盟の伝道者養成に関する委員会委員を務めている豊永義典氏により、「伝道者養成に関する現状と課題」というテーマで発題があり、続いて質疑応答の時間が持たれました。発題と質疑応答の内容は別途作成されている代表者会議記録を参照ください。

続いて、各種の報告がありました。主なものは、神学校献金・壮年会費の上半期実績とその評価、オンライン研修会(10月19日)の報告、西南学院大学神学部出張講座について、各地方連合からの現状報告などでした。

最後に各種の協議事項について活発な議論が交わされました。主な協議事項は、全国壮年会連合のホームページを今後どのように改善して行くか、ジェンダレスについてのこれからの進め方ならびに役員候補者(副会長)選考方法についてという二つのテーマに関する検討委員会の立ち上げを協議し決定、献身者の掘り起こしについてならびに協力伝道の推進についての意見交換、などでした。

オンラインではありましたが、関係者が一堂に会することができ、貴重で有意義な機会となりました。



第2回地方連合壮年会等代表者会議(オンライン代表者会議)

<全国壮年会連合関連の今後の予定>

- 2月15日(土) 第3回役員会(対面)
- 3月1日(土) 第2回合同会(役員・奨学金委員)(対面)
- 4月11日(金) 定期監査(連盟事務所)
- 4月12日(土) 第1回役員会(対面)
- 4月19日(土) 第1回奨学金委員会(午前)、第1回合同会(役員・奨学金委員)(午後)(対面)

全国壮年会連合 会長:高良 研一(恵泉)、副会長・事務局長:稲川 仁(宝塚)
書記:木村 均(大井)、会計:高井 透(高崎)
監査:堤 秀幸(福岡西部)、大城戸 一彦(所沢)
同奨学金委員会 委員長:北村 慎二(宝塚)、総務:浦瀬 佑司(札幌)、会計:田口 清吾(平針)
返還:鶴澤 寛(鳥栖)、渉外:古田 晴彦(宝塚)
連盟担当理事:武林 真智子(飯能)、神学部長:才藤 千津子(平尾)
事務局 飯野 實(富原)
神学校献金・会費 振替00150-7-669605 日本バプテスト連盟全国壮年会連合事務局

